



寺ネット・サンガ通信 第8号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階

Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

中下代表のブログ から

～ノートパソコンが壊れる～



「中下大樹のブログ」（2013年4月20日）を編集

普段、東北の被災地に出かける時も、日本各地に講演会等に出かける時も、いつも持ち歩いているノートパソコンがいきなり壊れた。

今まで書き溜めていた原稿や、その他もろもろのデータ、メール等も、全くダメになってしまった。

このブログは携帯から書いている。

普段、そのノートパソコンでいつも仕事をしているため、今まで当たり前に来てきたことが急に出来なくなった。パソコンに依存して生きてきたんだなあ、改めて思う。そして、こんな私に原稿を依頼して下さる出版関係者の方の顔が浮かんで来て、申し訳ない気持ちで一杯になる。

金曜日が締め切りの原稿がひとつあった。しかし、パソコンが壊れてしまったため、全く手付かず状態。

携帯でパソコンのメールも見れるらしいけど、そもそも携帯が苦手な私としては、その設定のやり方が分からない。だからパソコンのメールも見られない。

でも何処か、ホッとしまっている自分もいたりして…

だが、何とも言えない寂しい気持ちになっている自分もいる。

何だか世間から隔絶されたような感覚…

しかし、たかがパソコンじゃないか！という気持ちもある。

同時に、やはりパソコンを通じた人間関係に、どこか無意識の内に依存して今まで生きてきたという事も否めない。そんな事を改めて見つめ直した。

私は人の死についてこのブログを通じて書く事が多い。

きっと、私が死ぬ時も、恐らく今感じているように、世間から置き去り感を感じつつ、逝ってしまうのかなともふと考えてしまう。

という訳で、新しいパソコンを買いに行き、ネット環境が整うまで、いろいろな方にご迷惑をおかけしてしまう事になりますので、予めごめんなさいと言っておきたいと思います。すみません！

中下代表の新刊 「あなたならどうする 孤立死」 三省堂 定価 1600 円

孤立死なんてこわくない！ 孤立死をしない・させないために私たちができることは？

相談や見回り、葬送支援など 2000 件を超える方々と関わる著者による最前線報告。



はじめに

第1章 さまざまな孤立死の現場

第2章 〈対談〉湯浅誠×中下大樹 孤立死が増える社会とは？

第3章 〈鼎談〉反町吉秀×鈴木ひろみ×中下大樹 孤立死を失くす街づくりを一緒に考えよう

おわりに

10月9日(火)



プチ法話「鬼哭啾啾」(きこくしゅうしゅう) 雑誌「SOGI」ライター 太田宏人
「この世に神も仏もいるのかよ!」と被災者に怒鳴られたらどう答えるか? 普段から
死生観・宗教観を深めておかなければ逃げ出したくなる状況だったという『傾聴に取り
組む宗教者の会(KTSK)』の活動などについてお話いただきました。

坊コン談義「死ぬ時に後悔しないために、今日から大切にしたい事」

「今という時間を大切にしたい」「日頃の感謝を大切にしたい」「毎日に忙殺され、後
悔する時間がなさそう」「後悔したっていいじゃない」「死から生をみる視点が重要であ
る」「一人でじっくり死にたい」などたくさんの意見が出ました。

11月6日(火)



プチ法話 「法医学者が語る死生観」 大妻女子大学教授 反町吉秀
リストラなど経済的な問題も餓死など孤立死を生み、社会の厳しさをまざまざとご遺体
が語っているとのこと。世の中にはもったいない死(救えた死、救える死)が多すぎる。
社会のサポートの必要性や不審死を目を向けることの大切さを教えていただきました。

坊コン談義「自分で書きたい自分の死亡記事」

法話で他者の死因や事例を聞いた流れを、今度は自分にあてはめ、自分の死に方(死因)
を考えました。ご両親の死がご自分の死亡記事に大きく影響されたという方や、もっと
家族で話をしておく必要性を語る方など、みなさんの思いを共有しました。

12月5日(水)



プチ法話 「宗活とは」 平塚市 浄土宗 浄信寺住職 吉田健一
宮沢賢治にまつわる話や被災地に関する話、そして、ご自身の哲学、死生観に関するお
話を交えながら『お坊さんといっしょにわたしの宗教的感性を耕す活動』=宗活という
内容をご説明しました。

坊コン談義「私にとって宗教的感性といえば…」

「日本人的な文化(特に童謡等)に宗教的感性を強く感じる」「生きているそのままが
宗教」「宗教とは信じるものではなく体験するものだったのでは?」「お坊さんも悩ん
でいるとわかれるとホッとする」など純粋な感想やご意見が出ていました。

1月15日(火)



プチ法話 「浄土について」 八王子市 浄土真宗本願寺派 延立寺住職 松本智量
命とは独立しているものではない、命が共有されている関係性、その状態がすでに浄土
です。そこに帰る(還帰)場所をイメージできますか? また、自分自身が誰かの帰る
場所(関係性)に成り得ているのでしょうか?

坊コン談義「あなたにとって浄土とは?」

「帰る場所って精神的なよりどころだよ」「帰る場所を今作成しているんだよ」「先に
逝った身内とあえる場所なのかな~」「死んでから行く場所ではないんだよ、きっと」
それぞれの浄土観?のようなものが芽生え、好奇心がより深まった瞬間でした。

3月6日(水)



プチ法話 「災害と仏教」 大田区 日蓮宗 永寿院住職 吉田尚英
天変地異・飢饉疫病と鎌倉新仏教が生まれた背景、日蓮聖人の『立正安国論』、宮沢賢
治の『アメニモマケズ』の法華信仰、東日本大震災で避難所となった住職の思いなど
についてのお話でした。

坊コン談義「東日本大震災を振り返る」

「帰宅困難な人々へ対応が素早い人たちがいた」「情報の混乱・操作を感じ、
メディアへの不信感が大きくなった」「原子力発電所の状況を見て、人を使い
捨てのように扱っていることに憤りを感じる」など多くの意見が出ました。

仏教ひとまわりツアー ダイジェスト

「仏教ひとまわりツアー」第3段は、尼僧さんといっしょに浄土めぐりをしています。浄土とは、死んでから行くところではなく、生きているうちに行くところ。楽しい体験です。

第9回 2月9日(土)

法話「浄土宗の教えと浄土」

浄土宗 光源寺福住職 島田絵加

浄土宗 光源寺



命尽きた後、おだやかな時間を過ごす場所「浄土」を思うと、「今」もおだやかな気持ちで過ごすことができるのではないのでしょうか。私たちのいのちが尽きた瞬間に、阿弥陀如来さまが「お迎えに来てくださいますように」とお願いする気持ち、またお迎えに来てくださったことに対する感謝の気持ちを込めてお念仏をお唱えします。

ワークショップ「遺書を書く」



どのようなことを、誰に伝えたいのかということを実際に考えることで、今自分の思いがどんなことに注がれているのかということを確認する作業です。書き終えた後、遺書を書きながら思ったこと、気づいたことなどを4、5名のグループに分かれて話し合いました。

参加者の声

- ・若くて目がキラキラとした笑顔のステキな尼僧さんでした。
- ・おだやかな「浄土」が待っていると思うと「今」をおだやかに過ごせる気がします。
- ・遺書を書くことに感情を込めすぎてしまった。
- ・かつての茶室を生かした本堂、民家を移築した書院、とにかく建物が素晴らしかった。

第10回 4月13日(土)

法話「浄土真宗の教えと浄土」 浄土真宗本願寺派 光善寺坊主 柳川眞諦

浄土真宗本願寺派 光善寺



浄土真宗は、阿弥陀如来さまの本願力(慈悲と智慧の働き)によって、人間の命が尽きたら、即浄土に往生という教えです。浄土の蓮池には蓮の花が咲き乱れ、それぞれの色に輝き、光を放って協調し合っていますお互いの色が「協調し合っている」美しい浄土の世界は、命の尊厳や平等を表しています。私たちの命はかかわり合って生きているということを示しています。

ワークショップ「エンディングノートを書く」



死を迎えたい場所やお葬式の形式、喪主を誰にするかなどの記入した後、書いてみた感想をグループに分かれて話し合います。何も書けなかった方がいたり、「遺影をどうしようか」「自宅で亡くなった場合って警察が来るのかしら」などと、あらためて疑問や気づきを得た方もいました。

参加者の声

- ・都会のお寺をお参りすることができてよかった。
- ・普段は聞き流してしまっているお経の意味が少し理解できてありがたかったです。
- ・阿弥陀経の話が分かりやすかった。キンキラキンの理由が浄土のイメージだったとは。
- ・葬儀の？をはっきりさせていただいた気がします。「how-to」を考える時代だと納得しなければ。

第11回の予定

平成25年6月8日(土) 東京都葛飾区柴又7-10-3 柴又帝釈天 題経寺

眞さんと有名な柴又帝釈天。実は日蓮宗のお寺です。彫刻やお庭など境内をゆつくりご案内いただきます。御前さまのお嬢さんは尼僧さんで幼稚園の園長先生。

「自分の弔辞を書く」というワークショップをした後、絵本の読み聞かせをしていただく予定です。

楽しい浄土でお待ちしています！ お誘いあわせお申し込みください。

寺ネット・インフォメーション

サンガ・ウエディング in 大阪
平成25年4月20日(土)
大阪市 興徳寺にて



寺ネット・サンガの会員でもある大阪市天王寺区 興徳寺住職 青木隆興さんが、サンガ会員の超宗派僧侶出仕による仏式結婚式「サンガ・ウエディング」を挙げられました。各宗派の華やかな法衣の僧侶が、読経・真言・念仏・題目・称名をお唱えし、仏さまの祝福を受ける厳粛な式でした。

今後もサンガ・ウエディングのご要望・ご相談に応じます。



『いのちをありがとう』キャンペーン



お釈迦さまがお生まれになった4月8日に『いのちをありがとう』の思いをこめてピンクのチューリップを贈り合おうというキャンペーン。

各寺院の花まつり行事でもメッセージ絵本とセットでチューリップの販売を行ったり、大きな絵本の読み聞かせを行なうなどしてきました。4月13日の「仏教ひとまわりツアー」でも参加者にチューリップと絵本を配りました。5年後10年後には、日本中の人が「いのちをありがとう」と感謝の思いを贈り合えるような大きな波になるよう、第1歩を踏み出しました。

KTSE (傾聴に取り組む宗教者の会)



被災地での活動報告や告知など。

一見さんの参加も歓迎。

「何かしたかったけど、何をしてもいいかわからない」

「きっかけがほしかった」

「どこにつながればいいかわからなかった」

そんな思いをお持ちの僧侶、一般の方、

一緒に活動しませんか？

毎月被災地を訪問しています。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://ktsktsk.jugem.jp/>

本の紹介



『そっと後押し きょうの説法 其の四』 そっと後押し僧侶の会

！ 幻冬舎 定価 1100円

ときに反省し、なぐさめられ、しみじみと人生を考える。

たくさんの「気づき」が込められたお坊さんたちの言葉です。

苦しみが消えて、心がじんわり暖くなる、お坊さんたちからのメッセージ

※このコーナーに関するお問い合わせは事務局まで。

また、このコーナーに掲載を希望する情報がありましたら事務局までお寄せください。